

【安定した水の供給】

◇運営管理
(1)施設管理

◇基準 高:高いほど良 低:低いほど良	◇判定 ↑:改善 →:変化なし ↓:悪化	◇優劣 優:全国中間値より良い 劣:全国中間値より悪い 同:全国中間値と同等	◇全国中間値(令和元年度値) (公財)水道技術研究センターで公表している全国の水道用水供給事業の度数分布図から中間値(50%値)を記載した。
---------------------------	-------------------------------	---	---

番号	指標名	定義	基準	R2	R3	R4	R5	R6	判定	優劣	全国中間値	説明
B103 (4101)	地下水率(%)	(地下水揚水量 / 年間取水量) × 100	—	0	0	0	0	0	→	同	0	水源利用水量に対する地下水揚水量の割合を示す。
B104 (3019)	施設利用率(%)	(一日平均配水量 / 施設能力) × 100	高	64.9	64.3	64.6	64.4	65.6	↑	優	64.7	1日平均配水量の1日給水能力に対する割合。水道施設の経済性を総合的に判断する指標。基本的には高い方がよい。
B105 (3020)	施設最大稼働率(%)	(一日最大配水量 / 施設能力) × 100	高	77.7	71.9	82.3	75.9	73.0	↓	優	70.4	1日最大給水量の1日給水能力に対する割合。水道事業の施設効率を判断する指標。基本的には高い方がよい。
B106 (3021)	負荷率(%)	(一日平均配水量 / 一日最大配水量) × 100	高	83.6	89.4	78.5	85.0	89.8	↑	優	89.5	1日平均配水量の1日最大給水量に対する割合。水道事業の施設効率を判断する指標。
B112 (3018)	有収率(%)	(年間有収水量 / 年間配水量) × 100	高	100.0	100.0	99.7	100.0	100.0	→	同	100.0	有収水量の年間配水量(給水量)に対する割合。水道施設及び給水装置を通して給水される水量がどの程度収益につながっているかを示す。
B113 (2004)	配水池貯留能力(日)	配水池有効容量 / 一日平均配水量	高	0.57	0.57	0.58	0.59	0.58	↓	優	0.27	水道水を貯めておく配水池の総容量が平均配水量の何日分あるかを示す。需給の調整及び突発事故のため0.5日分以上は必要とされる。

(2)事故災害対策

番号	指標名	定義	基準	R2	R3	R4	R5	R6	判定	優劣	全国中間値	説明
B204 (5103)	管路の事故割合(件/100km)	管路の事故件数 / (管路延長/100)	低	0.0	0.3	0.3	0.0	0.3	↓	劣	0	管路延長100km当たりの年間管路事故件数の割合を示す。
B205 (2202)	幹線管路の事故割合(件/100km)	基幹管路の事故件数 / (基幹管路延長/100)	低	0.0	0.3	0.3	0.0	0.3	↓	劣	0	年間の幹線管路(給水栓を接続する配水管以外の一般に口径の大きい管)の事故(破裂、漏水など)が幹線管路総延長100km当たり何件あるかを示す。

(3)環境対策

番号	指標名	定義	基準	R2	R3	R4	R5	R6	判定	優劣	全国中間値	説明
B301 (4001)	配水量1m ³ 当たり電力消費量(kwh/m ³)	電力使用量の合計 / 年間配水量	低	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	→	優	0.34	1m ³ の水を送水するまでに要した電力消費量を示す。
B302 (4002)	配水量1m ³ 当たり消費エネルギー(MJ/m ³)	エネルギー消費量 / 年間配水量	低	0.23	0.22	0.22	0.23	0.22	↑	優	3.10	1m ³ の水を送水するまでに要した消費エネルギーを示す。
B305 (4004)	浄水発生土の有効利用率(%)	(有効利用土量 / 浄水発生土量) × 100	高	33	100	100	100	100	→	同	100.0	浄水場で発生する土を埋め立てなど廃棄処分をせず、培養土などとして利用している量の全発生土量に対する割合を示す。
B306 (4005)	建設副産物のリサイクル率(%)	(リサイクルされた建設副産物量 / 建設副産物排出量) × 100	高	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	→	優	82.4	水道工事で発生する土、アスファルト、コンクリートなどを廃棄処分せず、再利用している量の全建設副産物量に対する割合を示す。

◇施設整備

(1)施設管理

番号	指標名	定義	基準	R2	R3	R4	R5	R6	判定	優劣	全国 中間値	説明
B401 (5102)	ダクタイル鋳鉄管・鋼管率(%)	$[(\text{ダクタイル鋳鉄管延長} + \text{鋼管延長}) / \text{管路総延長}] \times 100$	高	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	→	同	100.0	鉄製の水道管であるダクタイル鋳鉄管と鋼管の延長の水道管総延長に対する割合を示す。一般に鉄製水道管は信頼性が高いとされている。
B402 (2107)	管路の新設率(%)	$(\text{新設管路延長} / \text{管路総延長}) \times 100$	—	0	0	4	0	0	→	同	0	年間で新設した管路延長の総延長に対する割合。

(2)施設更新

番号	指標名	定義	基準	R2	R3	R4	R5	R6	判定	優劣	全国 中間値	説明
B501 (2101)	法定耐用年数超過浄水施設率(%)	$(\text{法定耐用年数を超えた浄水施設能力} / \text{全浄水施設能力}) \times 100$	低	0	0	0	0	0	→	同	0	法定の耐用年数を超えた浄水施設能力の全浄水施設能力に対する割合。大きいほど古い施設が多いことになるが、使用の可否を示すものではない。
B502 (2102)	法定耐用年数超過設備率(%)	$(\text{法定耐用年数を超えた電気・機械設備数} / \text{電気・機械設備の総数}) \times 100$	低	69.3	70.9	38.3	49.7	68.0	↓	劣	51.1	法定の耐用年数を超えた電気・機械設備数の電気・機械設備の総数に対する割合。大きいほど古い設備が多いことになるが、使用の可否を示すものではない。
B503 (2103)	法定耐用年数超過管路率(%)	$(\text{法定耐用年数を超えた管路延長} / \text{管路総延長}) \times 100$	低	58	59	68	67	67	→	劣	22.8	法定の耐用年数を超えた管路延長の総延長に対する割合。大きいほど古い管路が多いことになるが、使用の可否を示すものではない。
B504 (2104)	管路の更新率(%)	$(\text{更新された管路延長} / \text{管路総延長}) \times 100$	高	0.00	0.79	0.00	0.54	0.47	↓	優	0	年間で更新した管路延長の総延長に対する割合。逆数が管路を全て更新するのに必要な年数を示す。

(3)事故災害対策

番号	指標名	定義	基準	R2	R3	R4	R5	R6	判定	優劣	全国 中間値	説明
B605 (2210)	管路の耐震管率(%)	$(\text{耐震管延長} / \text{管路総延長}) \times 100$	高	41.3	42.3	44.7	46.5	47.0	↑	優	34.6	多くの管路のうち耐震性のある材質と継手(管の接続部)により構成された管路延長の総延長に対する割合。
B609 (2211)	薬品備蓄日数(日)	平均薬品貯蔵量 / 1日平均使用量 全浄水場の平均値であるため*をつけている	高	* 31.8	* 33.3	* 27.9	* 27.8	* 27.5	↓	優	23.3	浄水場で使う薬品が一日平均使用量に対して何日分貯蔵してあるかを示す。薬品の劣化が無い範囲で余裕を持つことが望ましい。
B610 (2212)	燃料備蓄日数(日)	平均燃料貯蔵量 / 1日使用量 全浄水場の平均値であるため*をつけている	高	* 4.3	* 4.1	* 5.7	* 6.7	* 6.0	↓	優	0.9	浄水場で使う燃料が一日使用量に対して何日分貯蔵してあるかを示す。災害時等の停電予想期間分の電力を備えることが望ましい。